認定NPO法人
暮らしネット・えん

No.71

えん通信

電話048-480-4150

2022年1月31日発行

障がい者相談支援事務所棟　建築中！

2021.11.24 地鎮祭

暮らしネット・えん本部、グループリビングえんの森、そしてこの事務所棟と石神の丘の上に 3 棟目の建物を新築中です。オミクロン株猛威の中で緊張続きの毎日ですが、日に日に立ち上がって行く建物に、前を向いてこの仕事を続けていかなくてはと励まされます。

この建物には、新座市の障がい者支援の柱となる『基幹相談支援センターえん』をはじめ、障がい者支援の事務所が入ります。竣工予定は３月末の予定です。

― 蝶の羽ばたき ―

2022年最初のえん通信をお届けします。

年末には収束が近いかと思わせた新型コロナウイルスは、オミクロン株の登場で一転感染爆発、えんでも職員家族の感染や利用者さんの濃厚接触認定など、緊張が走る年明けになりました。えんは週一回のPCR検査が頼みの綱で、メールでの検査結果報告「全員陰性」に毎回胸をなでおろしています（1月28日現在）。社会全体でもっと気軽に検査が受けられれば、もう少し安心できるはずですが、今度は軽症が多い若年層は検査なしで自宅療養とか、コロナ禍から2年、検査体制さえ拡充できないのかとため息がでます。

年明け早々、励まされ心温まるお便りを続けていただきました。一つ目は知らない方からの宅急便、長野県飯田市にある社会福祉法人ゆいの里からです。開封すると手紙と当地のパンフレット、それにおいしそうなリンゴまで入っていました。手紙にはグループホームえんの「百年インタビュー」を掲載した雑誌を読まれ（えん通信に掲載したもの加筆し介護専門誌『ゆたかかなくらし』に寄稿）、ご当人の出身地が法人のすぐ近くであり、嬉しくてお手紙をくださったとのこと。文章にまとめたスタッフはじめ、みんなが思いがけないプレゼントに大喜びしました。

もう一つは、利用者さんからのご寄付に添えられていた「これからもバタフライ・エフェクトを」の一言。バタフライ効果とは「ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきはテキサスで竜巻を引き起こすか？」という素敵な問いに由来します。気象学者ローレンツの講演表題だといいますが、小さな働きかけが大きな変化をもたらす可能性があるたとえにも使われます。えんがことあるごとに要望書を出すなどの活動をしているのを励ましてくださったのですね。このお手紙をいただいた前日、毎日新聞の論壇『発言』欄に小島の寄稿が掲載されました。タイトルは『訪問ヘルパー、消滅の危機』。内容は再三ここでも取り上げている人材難と国の対応不足ですが、「何度言っても変わらない…」とネガティブな気持になっていたところでした。いやいや、小さなNPOのアクションが変化をもたらすかもしれないと教えられました。『発言』はえんホームページにアップしていますので、ご覧いただければ幸いです。

皆さんの励ましで、今年も「発信するえん」でありたいと願っています。

代表理事　小島美里

祝百歳！おめでとうございます

１月１０日（月）デイホームえん利用者小幡信子さん百歳のお祝いの会を行いました。グループホームえん入居者の方々も全員参加され、娘さん２人も駆けつけてくださいました。

小島代表が同じ年に生まれた人を調べたら、水木しげるさん、山下きよしさん、そして去年亡くなられた瀬戸内寂聴さん。それからあのサザエさんも１９２２年１１月２２日生まれだそうです。

「今日は成人式ですが、その５倍を生きて、戦争中にビルマに看護師として派遣されるという過酷な日々があり、ご苦労されたことと思います」とあいさつにあったように、私たちには想像もつかない前半生だったことでしょう。

ご本人への質問コーナーで「看護師の道を選ばれたのは？」と伺うと、「自分で決めた！世の中が（戦争で）大変なことになっていたので」と力強く答えて下さいました。

総理大臣からの表彰状を手渡し、男性利用者が花束を贈呈し、最後に「ふれー、ふれー、小幡さん！」と応援団スタイルでエールを送り、あっという間に楽しい会が終わりました。

（デイホームえん／吉村桂子）

暮らしネット・えん　新人紹介

９月からお世話になっております和田真希です。福祉の仕事に関わりたいと思い、気づけば介護の世界に魅力を感じるようになり…飛び込んできました。至らないことも多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

和田真希（ケアサポートえん勤務）

１月に入職しました小野実穂と申します。11 月まで特養老人ホームで２年間働いてきました。介護職としてはそこでの仕事が初めてだったので、介護の大変さとやり甲斐を教えてもらいましたが、もっと利用者さんに寄り添った介護がしたい、施設ではない介護も経験したいと思うようになりました。えんの施設見学の時、人を大切にしている場所だと感じ、利用者さんが主体の介護を実践されていることに共感し、ここで働きたいと思いました。

利用者さんのお宅に伺う１対１での介護は初めてなので、皆様にお手間をおかけすることがあるかと思いますが、日々勉強で頑張りたいと思っております。

小野実穂（ケアサポートえん勤務）

母の介護がきっかけで訪問介護の仕事がしてみたいと思い、昨年３月からお世話になっております。まだまだ未熟な私ですが、ご指導いただきながら「丁寧な介護」を心がけていきたいと思います。

大室浩子（ケアサポートえん勤務）

イラスト（人物）／関根理恵子

イラスト／松崎有依子

えんに入職して約半年が経ちます。主に通院やお買物などを利用される方の移送と事務を担当しております。利用者さんに安心して乗車していただけるよう安全運転第一に、臨機応変な対応ができるように努めたいです。

また食べることが大好きなので、事務所にいると、おやつやお料理をいただけて幸せです。

私も優しさと心にゆとりをもってこれからも過ごしたいと思います。

中島麻里（ケアサポートえん勤務）

１０月に入職した桑名 円（くわな まどか）です。出身地は新潟です。５年前、出産を機に新座に引越してきました。近所での仕事を探していたところ、前職の上司からの紹介で入職しました。その方から「将来、自分の親に支援が必要になったら、お願いしたいくらい素敵な事業所」だと聞き、入職してみて納得しました。今まで、介護の仕事は経験してきたのですが、認知症の方のケアを一から学んでいます。天然ボケな私ですが、どうぞよろしくお願いいたします！

桑名円（デイホームえん勤務）

暮らしネットえんに縁があり、去年の11 月から仲間に加えていただいています。今までの職業から大きく舵を切り、夢だった調理の仕事に携わることになりました。嬉しくてしょうがありません！

河野秋子（えんの食卓勤務）

イラスト／田島薫

十文字学園女子大学の学生さんに、えんの食卓を紹介しました

イラスト／田島薫

昨年度に引き続き、11 月十文字学園女子大学社会福祉学科の学生に、”福祉と食”の授業の中で「食を介した高齢者の見守り支援～配食サービスを例に～」というテーマでえんの食卓で行っている配食サービスについて話しました。

暮らしネットえんの紹介から始まり、仕事内容を写真付きで紹介し、食事作りや配達の流れ、食中毒や異物混入がないように十分気を付けること、配達時に夏には利用者さんが熱中症になっていないか、冬は風邪をひいていないかなど短い時間で気づき、報告するなど利用者さんの安否を確認できるよう努めていること、利用者さんのお弁当を食べてみての感想、配食サービスのやりがい等々、オンラインで話しました。

以下、担当したスタッフ２名の感想と学生さんからの感想を紹介します。

【スタッフから】

・実際にあった事例を交えてお話ししたので、学生さんにわかってもらえたように思います。どう話したら学生に配食サービスのことが伝わるか、えんの食卓のスタッフの頑張りが伝わるか、気にしながら話せたと思います。（冨山優子）

・減塩、アレルギー、ご飯orおかゆなど、細かく気配りしているので、配達する側も間違えないようにしっかり確認しながら配り、いつもだいたい同じ時間帯に配達するよう心がけています。長年配達をして、利用者さんの体調の変化がすぐにわかるようになりました。利用者さんのお話は、勉強になり楽しいです。（田島邦城）

【学生さんから】

・高齢者の配食サービスについて学びました。私はそのような取り組みが行われていることを知らなかったです。高齢者は偏った食事になってしまいがちだし、人と話す機会が減って孤独死してしまう話をよく耳にします。それを改善してくれるのが配食サービスの良さだと思いました。

・コロナの影響で、デイサービスの休止や人が集まるスーパーに行けない等のストレスがかかっている中で、食事を通じて心のケアを行っていくことの重要性を理解しました。

・単身高齢者や孤独死の増加によって、見守り支援の必要性がさらに高まっていくと思います。配食サービスがもっと広がっていくといいなと感じました。

・短い配達時間で利用者の顔色などの健康面だけでなく、部屋の環境もチェックしているとの事だったので、ちょっとした異変に気付く力も必要なのだとわかりました。

・自分の住んでいる市はどのような取り組みがされているのか調べてみようと思います。

丸山久恵さん　100年インタビュー ③

～100歳のお誕生日を心から祝して～

●23歳結婚

・父親が嫁入りを決めてきてね、「行くのはいやだ！」と言ったら梨の剪定をしていた父親が怒って切った梨の枝を投げたら下にいた鶏に当たって鶏が死んじゃってねえ。母が悲しがって「お父さんが怒って鶏も死んでしまうから、あんた嫁に行ってくれ」と泣いて頼まれたんですよ。
義理の兄さん（姉の夫）が籠に着物から何からつめたのを背負ってくれて、2駅電車に乗って山を登って嫁入り先に行って。初めて行く家だったねぇ。
その日は悲しくておふとんを隣りの部屋に引きずってそこで寝てねぇ。翌日夫の父さんに「二人でお参りに行きなさい」と神社に結婚の報告に行かされた。そこで私も観念して言う通りにしなきゃあいけないと思って。悲しくてねぇ…昔はそんなことは普通でね、妹たちもみんなそんな風にしてお嫁に行ったもんだった。

・夫は丸山富（とみ）。6歳年上だった。東京のふとんやに就職してた。おとなしくて無口でね、自分からは一切喋らない人でねぇ。働き者で夫婦喧嘩なんか全然したことない。実家からも婿の中で一番いいぞと言われてたよ。

・新婚早々夫は出征して「ポナペ」っていう島に行って、穴を堀って中にもぐっているうちに終戦を迎えたみたい。

・夫が出征して一人でいても仕方なかろうと母が私を迎えに来て、2年ほど実家にいてねぇ。終戦後、飯田の町の映画館に両親と行ったら町が全部米軍に占領されて、米兵達に銃を突きつけられて映画を観るどころじゃなかった。私は怖いもの見たさでアメリカの兵隊さんを見ようと頭を上げると、父親が「こら撃たれるぞ」と頭を押さえてねぇ、怖かったですよ。

●焼野原の東京での新生活

・東京に出てきて、その当時は焼け野原で建物は何もなかったです。藁の家に、掘立小屋にいました。アメリカ兵がチョコレートや飴をくれるっていうんで、並ばにゃぁって並んでもらったけど情けなかったですよ、日本人は。

・夫は中目黒の「まいこ綿」というふとんやで、ふとんの綿入れをして小田急のホテルに届ける仕事をしてたねぇ。その後隣りに住んでいた大工さんに家を建ててもらって。

・私は店主のお嫁さんが体が弱かったもんでその両親の身のまわりの世話をしながら、ホテルの寝巻を50枚ずつ3日で縫い上げてたよ。

（聞き書き／長谷川洋子・西崎麻子）

◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する知識や、受けられる介護サービス等の情報提供、悩みごと、認知症のある方に対する介護のコツや症状を踏まえた生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

毎月第３水曜日 10 時～16 時　**TEL ０４８－４８０－４１５０**

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

イラスト／田島薫

◆ 今後の地域交流事業について ◆

認知症カフェ、だれでも食堂にいざはお休みさせていただきます。
再開が決まりましたらお知らせいたします。

◆ グループリビングえんの森入居者募集中！ ◆

高齢になっても、障がいがあっても、自分らしく住み慣れた地域で心豊かに暮らせる新たな住まいです。バリアフリーの住まい、大きな浴室、栄養豊かなあたたかい食事、同じ屋根の下に暮らして声をかけ合える仲間。高齢期を迎えて一人暮らしが不安になる条件をクリアし、できる範囲での役割分担を受けもちながら地域住民として暮らします。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

～ 職員大募集！！ ～

離職率が低いと評判の暮らしネット・えんでご一緒に働いてみませんか？
ヘルパー（訪問介護職員）・介護職員・送迎運転担当者募集しています。
資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

◆ 新型コロナウイルス対策 ◆

感染者が爆発的に増える中ですが、基本的な感染予防につとめ、毎週PCR検査を実施しております。

地域で暮らし続けていくために　2021年度新規・継続会員募集中！

正会員 ： **1000** 円　　賛助会員 ： **3000** 円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替（00180－5－314344）

イラスト／田島薫

■ 編集・発行　**認定NPO法人暮らしネット・えん**

〒352-0033　埼玉県新座市石神2－1－4

電話：048-480-4150　FAX：048-201-1311

Eメール：npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ：https://npoenn.com/